

第2章 庄川流域等の概要

第1節 流域等の概要

1. 流域等の概要

3

庄川は、その源を岐阜県高山市の烏帽子岳（標高 1,625m）と山中山の山中峠（標高 1,375m）に発し、岐阜県内で尾上郷川、六蔵川、大白川等を合わせて北流し、富山県に入り南砺市小牧付近で利賀川を合わせたのち砺波平野に出て射水市大門で和田川を合わせて日本海に注ぐ、幹川流路延長 115km、流域面積 1,189km²の一級河川です。

その流域は岐阜及び富山両県の7市1村からなり、流域の土地利用は、山地等が約 93%、水田や畑地等の農地が約 6%、宅地等の市街地が約 1%となっています。また、流域下流部に広がる扇状地には、富山県の主要都市である高岡市、砺波市、射水市などが位置し、基幹交通ネットワークとして、JR 北陸本線、北陸自動車道、東海北陸自動車道、一般国道 8 号、156 号があるほか、北陸新幹線が整備中であるなど交通の要衝となっています。

流域内には、白山国立公園と 3 つの県立自然公園及び 4 つの県定公園が存在する等豊かな自然に恵まれています。また、庄川の水質は良好で、その水は豊富な地下水と合わせて砺波平野に及び射水平野を潤し、富山県内一の穀倉地帯を支えているとともに、小牧発電所をはじめとする水力発電など、様々な水利用が行われています。



表 2-1 流域及び氾濫域の諸元

項目	諸元	備考
幹川流路延長	115km	
流域面積	1,189km ²	山地等 93.2%、農地 5.7%、宅地等 1.1%
流域内市町村	7市1村	富山県 5市 高岡市、射水市、砺波市、富山市、南砺市 岐阜県 2市1村 高山市、郡上市、白川村
流域内人口	約 2.8 万人	富山県 2.42 万人 (86.6%) 岐阜県 0.38 万人 (13.4%)
想定氾濫区域面積	241.7km ²	
想定氾濫区域内人口	約 25.6 万人	
想定氾濫区域内資産額	4 兆 3,700 億円	
支川数	47	

図 2-1 庄川流域図

4. 自然環境

庄川の自然環境は、その特性により流域の上流部、中流部、下流部、湧水部の4区分に区分することができます。

(流域上流部)

源流から御母衣ダムまでの流域上流部は、ブナ・ナラ等の自然林が広い面積を占めており、白山国立公園内を初めとする高層湿原ではミズバショウ、ザゼンソウ、ワタスゲなどが生育しています。また、支川沿いには発達した溪谷林が見られます。

(流域中流部)

御母衣ダムから庄川用水合口ダムまでの流域中流部は、庄川峡をはじめとする深い峡谷が連続しており、コナラ群落やブナ・ミズナラ等の原生林が広がる四季折々の彩りを映して流れる景勝空間であるとともに、発電等のためのダム湖などの湛水区間が連続しています。

(流域下流部)

庄川用水合口ダムから河口までの流域下流部は、水質も良く、清澄な水に依存するアユやイチモンジタナゴ等の多くの魚類が生息しています。庄川用水合口ダムより雄神橋までの天然河岸にはサイカチ等が生い茂り、露岩や転石の間にはツメレンゲ等が見られます。また、雄神橋より大門大橋付近までは、流路が網状に流下して広い砂礫の河原が形成されています。この付近では、砂礫河原に依存するカワラサイコ等の群落やコチドリ等の鳥類が見られ、アユやアカザ等の魚類が生息しています。大門大橋付近から河口までは高水敷と低水路とが明確に区別でき、高水敷ではチガヤ群落、水際にはヨシ群落が発達し、中州に茂る中低木群はサギ等の鳥類の集団営巣地となり、緩やかで泥質な水域にはナマズやシンジコハゼ等の魚類が生息しています。

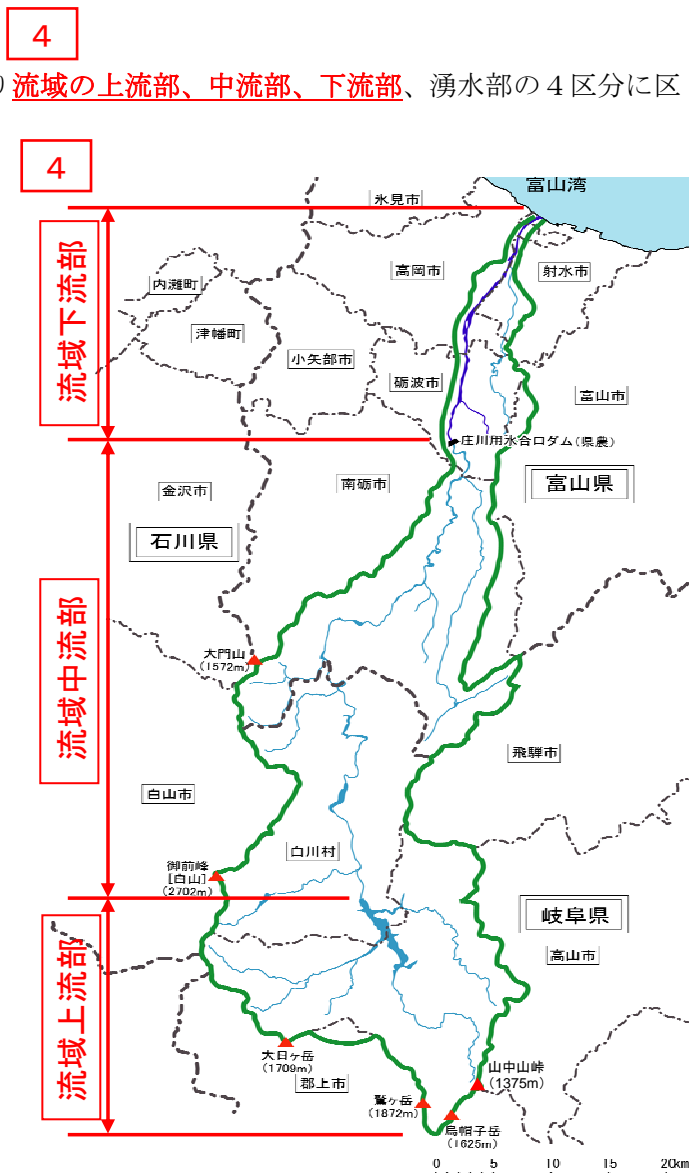


図 2-7 流域の区分